柴田正文君を偲んで

羽田義久　（11 組）

あんなに元気だった「高校球児」が先に逝くとは・・・

彼は 11 組の同級生でしたが、実は定時制を経ていたので一歳年上の先輩で、私にとっては兄貴のような男でした。そして、いつもゆったりと落ち着いた大人の雰囲気を漂わせていました。
彼は野球部の主将でキャッチャー、私はバレー部のエースで、何故かお互いに話をする機会が次第に増えた頃でした。わがクラスには同じ野球部の輿水章比古君（故人）もいて、時々バッテリーを組む間柄でした。

彼は高校卒業後に税務大学へ進み、その後、各地の税務署に勤めました。
私は長らく疎遠になっていましたが、ある時、久しぶりに同級会で会ったら「税務署長」になっていました。
いろいろ話すと、彼は野球という特技があったので、行く先々の税務署で野球好きの上司に大変可愛がられ、野球で豊かな人生になったと嬉しそうに語ってくれました。
そういえば、確か長岡税務署長の時に、新潟で一番の名酒を送ってもらったことを思い出しました。（その節は、誠にありがとうございました！）
彼はその後、独立をして、さいたま市岩槻で事務所を開き、税理士として活躍をしていると聞いていました。私は将来、私の会社の税務を指導して欲しいと思い続けていた矢先の旅立ちでした。
実に残念で、淋しく、悔しいです。
もう一度会って、いろいろ懐かしい話を、野球の話を、そして経営の話をじっくりしてみたかったです。

どうか柴田正文君、安らかにお眠りください。
そして天国で、先に逝った輿水君と久しぶりにバッテリーを組んで、のんびりとキャッチボールを楽しんで欲しいと願っています。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。
（2024 年 11 月 28 日記）

柴田正文君（後列左端）、
その右は筆者（羽田）、中山君、
手前左から佐藤君、福澤君

筆者（左）と柴田正文君

以上